

1. 本園の教育目標

人間の基礎が培われるかけがえのない幼児期に、整ったよりよい保育環境の中で、豊かで多様な経験を積み、周囲とのかかわりを持ちながら、心身のバランスの取れた子どもたちの育成を目指すという教育理念に基づき、以下の教育目標を掲げるものとする。

- (1) すこやかで、たくましい心身を養う。
- (2) ゆたかな表現力と、創造力を育てる。
- (3) 考える力、考えるよろこびを培う。
- (4) お友達とかかわって遊ぶよろこびを育てる。
- (5) 豊かで多様な経験をすることによって、個性を伸ばし、個々の可能性を見いだす。
- (6) 子どもたちにとって、よりよい保育環境を整備する。

2. 重点的に取り組む目標・計画

幼稚園教育要領を根幹に置き、園の教育理念・教育目標に基づいて、各保育者が教職員間の共通理解をはかり、自身の保育を見つめ直し、教育の質の向上に努め、教育内容の改善に主体的に取り組む、本園が担う幼児教育の役割について考えることを重点項目とする。

3. 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	取組状況
教職員間で園の教育理念・教育目標についての共通理解を図る。	園の教育理念・教育目標を全職員で再確認し、年一回の内部監査を実施することで各自の理解度を図るものとしている。
幼稚園教育要領および園の教育理念・教育目標にしたがい、保育カリキュラムを編成する。	幼稚園教育要領および園の教育理念・教育目標をふまえた年間保育カリキュラムを作成している。さらに学年会議で詳細な週間指導計画をたてている。
日々の保育を振り返り、各自の保育を見直す。	主活動サービス検査シートに加え、指導計画通りにできているか、また改善点はないかを日々自己評価し、次の保育に活かせるようにしている。
教職員間での意見交換を充実させる。	週1回の学年会議、毎月の職員全体会議に加え、各行事の反省会を実施するなど意思伝達の機会を多く設けている。
園児の個性を読み取り、適宜、個別の保育指導計画を考える。	必要に応じて保育カウンセラーと話し合い、個別指導計画の作成を検討している。また保育カウンセラーと保護者の面接機会を設け、家庭との連携を確立するようにしている。
教職員の質の向上のために、園内外での研修実施・参加を充実させる。	各教科の園内研修に加えて園外研修にもすすんで参加し、各研修資料を職員全員で精査することで各々の質の向上をはかる。
教育環境の整備をはかる。	預かり保育使用保育室の見直しや担当保育者数を増やす等の工夫をして、預かり園児数の増大や時間延長に対応する。また学年毎に預かる時間や異年齢交流を考えた預かり方を実践している。さらに、体操・水泳・英語などの特別指導科目と課外教室の充実をはかる。
園児の成長を援助するためにも、園と家庭との連携をはかり、細かな情報でも共有できるようにする。	保育者は保護者との連絡を密に取り、園児に関する細かな情報の提供、取得をする。その結果を園児の成長に繋げていけるように講じる。

園舎等の施設・設備について安全点検をし、幅広い資料を取得して安全な保育環境を維持する。	保育作業マニュアルに基づき、施設・設備の安全点検をし、教育サービスにおいても全国の保育施設で起こった事例を基に安全かつ安心感のあるサービスを提供するように心がける。
---	--

4. 自己評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

<p>全職員が自己評価の主旨を理解し、各自適切に自己点検、自己評価に取り組んでいる様子が見られた。今後も客観的な目で自らの教育、保育を振り返り、さらに充実した保育実践ができるように努力を積み重ねてほしい。</p> <p>また職員間でのコミュニケーション能力が向上し、意思伝達がスムーズにできるようになってきている。同時に保護者の方との情報共有もできてきている。</p> <p>施設・設備面では環境整備に力を入れており、保護者の方々に安心してお子様を預けていただける教育サービスにおける安全面を念頭に、保育環境を整備している。</p> <p>その結果、概ね目標を達成できたと思われる。</p>

5. 今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法
教職員間での協力・連携	学年に関わりなく、他の学年のカリキュラム内容も把握し、更なる協力体制を構築できるようにする。
特別支援教育	引き続き医療・福祉の関係機関との連携や、保育カウンセラーの助言による個別指導計画の作成をし、日々の保育に活用できるようにする。
行事開催時の保護者との連携	行事によっては、席や順番に関して混雑が生じることがあるので、保護者の方々の協力の基、マナーのある態度で行事参加を促していくようにする。
預かり保育	預かり時間の延長や預かり保育のカリキュラムの見直しに乗じて、預かり保育の参加者が多くなってきている。特に長期休業日期間の預かり保育の担当者の配置の方法も視野に入れて適宜改善を講じるようにする。

6. 学校関係者の評価

<p>教職員の方々子ども達の喜びを糧にして日々保育に専念しているのが良く分かります。幼稚園の教育方針も子ども達を中心に考えた園づくりをされています。</p> <p>また先生方の保育に対する意欲や技術を伸ばすための様々な研修制度の充実、教育資料・教育材料の提供の他、職員間のコミュニケーションづくりにも工夫が見られ、その結果が保育に活かされていると受け取れます。</p> <p>音楽関係・体育関係・英語関係の指導も、外部の講師の先生達と一体となって行われ、より高いレベルの保育を目指されているのが伺われます。</p> <p>さらに、先生方にとって働きやすい職場環境を構築されていることも、充実した保育環境に繋がっているものと思われます。</p> <p>特別支教育や預かり保育についても、さらに充実した内容になるよう推し進めて下さい。今後も現在の保育水準を維持し、かつ向上されることを望みます。</p>

7. 財務状況

公認会計士監査により、適正に運営されていると認められている。
